



# 労働環境改善

## フィージビリティ調査実施について

愛知県板金工業組合で、創立30周年記念行事の一環として、平成7年度の事業計画に基づき、労働環境改善フィージビリティ調査事業を実施する事となった。これらの事業の調査に当っては、国・県・中小企業団体中央会のご支援を仰ぎつつ、

補助金によって運営されるものです。

今回の調査は、組合員の意識改革と、未来への探求とに鑑み、時間短縮職場改善、福利厚生充実といった労働環境にまつわる課題と、経営のメデア化など数多くの対応に迫られ、一刻も早く改善案を、各位に普及する事により、組合員の資質向上に寄与する為のものです。



調査事業を実施するに際し、学識経験者である大野経営事務所の支援を仰ぎ、専門委員として加わって頂き、アドバイスを受けるものです。

尚、当組合からは平野理事長を統括委員長に選任、一方各々のブロックから構成委員14名が選出され、第一回目の会

愛知 県合  
板金工業組  
名古屋市昭和一  
北山町3-8-12  
電 話 732-1226  
発 行 報 員 会

議を7月10日(月)県板3F会議室に於いて審議され、2月末日まで、尚4回目の運営会議を重ねたこれらの審議の中で真剣に取り組んでいる姿に感動を覚え貴重な体験を肌で感じた。先づ経過を述べさせて頂いたが、調査の趣旨説明などにより現状の把握と資料の配布方法などに併せ、アンケートの設問に対して、如何に理解度を深め、答えて頂く事か審議が繰り返され、細部にわたっての施策が検討された。これらの資料は各々の支部長を通じて、全組合員に配布され9月中旬の期限付で、無記名による郵送扱いでの必着とした。

これらの調査に合せて経営者の意識調査(ヒヤリングによる面談)も実施した。対象事業所は県下15事業所が抽出され、専門委員の先生方が分担して、尾張、三河、知多などの地区を巡回され実態調査が行われた。それらの実態調査に基き、概要を申上げるなら、私共

の業界は一人親方から複数の従業員を携えての事業所なども数多く、同一に揃えるのは至難といえよう、私共組合員もこれらの機会に是非共、調査内容を思い浮べ、労働条件や福利厚生面に施策を講じるならば、人手不足の折には人材確保に有意義ではないか、現代の若人にとって金銭感覚よりも、余暇を楽しむ快適な職場環境を求め、自分自身の生活にエンジョイを求めているのではと想定

!! 磨いた技 !!

## 愛知県職業訓練展

第38回愛知県職業訓練展が1月27・28日尾張会場・西三河会場・東三河会場に於て盛大に開催されました。

この愛知県職業訓練展は県内の公共職業能力開発施設及び認定職業訓練実施事業所・団体の訓練生の実習作品の発表等を行うことにより、皆さんに「職業訓練」を理解し関心を高めていただく為、愛知県職業能力開発協会及び愛知県技能士連合会が開催し31団体が毎年県内三会場にて行われ名古屋と尾張会場のみ、交互に会場を変更して催される。今年尾張会場となりその内容を……

されるので、事業者にとって理解度を示す時期で、経済の動向に左右されるが、感覚の切替へを早急に望むところである。調査内容が今期中に整理検討され、編集にと全力を注いでおり、結果報告も発表されよう。皆様方に配布され、届き次第中味を参照され、大いに参考並びに専門的な図書として、ご活用頂き事業のご繁栄に寄与して頂き、大いに活用して頂きたいと思えます。

沼澤

板金技能専門校に於ても銅板による家紋・レリーフ・表札作りの体験があり毎年人気が集まっている。今年はとくに婦人の方々、小学生の皆さんが数多く参加され子供達も達には学校にて工作の時間が少なく興味心々にてなれないかなづち等を使って楽しく作品を仕上げ上げていた。婦人の方々は家庭で使用するトタンバケツの取手の取付、ステンレスのチリトリの最後のリベット仕上げ等に手をたたきながら自分で作るんだとの楽しみもあり頑張っていた。会場には岐阜より毎年参加している婦人の方は昨新家を新築したがこの会場にて表札作りを行っている事を知っており自分の手で作った表札を掛けたいたい思い現在は表札がないまま、今年尾張会場にてぜひ作りたいと御主人・奥様の名前を三時間程かけて、額に汗を流しながら一生懸命作っておられすばらしい出来上りとなり私の一生の思い出深い表札となり新居の玄関に輝やくことでしょう。定年退職された年配の方は前年自分の表札を作り取り付けた処知人より何処で購入したかと言われ自分の手作りと言われ話しそれ以後20枚ぐらい



作って取り付けたのと。作るにつれてだんだんと良い表札が出来上り楽しみの一つにしています。一般の方々に訓練展の内容を知っていただき大変うれしい。訓練生も授業の学科として訓練展に参加し、一般の方々と共に訓練実演を行い訓練に必要な知識と技能を習得する場でもあるでしょう。二日間にて来場者も数千人となり「職業訓練」を理解し関心を高めていただき次代になう若い人達に技能を身につける訓練校に数多くの人達を送ってほしい。

西春 井藤

# ！労働災害の防止と 労災保険の運用について



知活動を通じて、職長から末端に至る迄、懇切丁寧に指導される事によって成果は得られる事と思います。

！労働災害を取巻く環境は厳しく、業界を圧迫している事は、いうまでもなく、一刻も早く景気の回復を望むところですが、さて、私達の業界も近代的な建築の美観的な要素が多様化し、高所作業に伴う危険度が増し、労働災害が最近急激に多発している現状をみる時猶予ならぬ事態と受け止め、最善の防止策を思うところですが、これらを顧みる時、事業主、事業者は安全衛生法の趣旨を良く理解し、研修会・講習会などに積極的に参加し、理解を深めて頂くと共に、必要限度の技能講習を取得させ、危険予



知活動を通じて、職長から末端に至る迄、懇切丁寧に指導される事によって成果は得られる事と思います。これらの事は事業主として、経営者として社会通念上放置する訳にはゆかず、職務であるとは表現しても過言ではなく、徹底した指導の基に、より良い職場環境の形成に努め、活発な安全活動を、継続される事を願いたいものです。

就業者は下請であれば元請の適用を受ける事が出来ませんが、元請がなく事業場で稼働する場合は、関連する業種の労災保険(継続)に加入し、労働者として保護を受ける事が出来る。又突発的に応援者を求め、万一の事態発生の場合は、特別加入の方々は除外されるが、特別加入者以外の方々は適用を受けられる事となるので、事務担当者にご相談される事が寛容かと思われま



### ◎通勤災害(複数の現場の場合)

一、被災労働者が、元請事業場(工事現場)に直接出勤する場合、就労現場が明確な場合については、元請の保険関係で処理する。  
自宅↓(直接現場明確)元請事業所現場  
二、下請事業所(事務

所)を経由して就労現場に赴く場合、住居と下請事業所間(イ)当日の就労現場が明確な場合は右記の一、による。  
自宅↓現場明確↓事務所↓就労現場  
(ロ)当日の就労現場が不明な場合、下請事業場の継続事業(事務所又は作業所)の保険関係で処理する。  
尚継続事業の保険のない場合は、下請事業場の雑工事(新規成立を加味)の保険関係で処理する。

係がない場合は、下請け事業場の雑工事の保険関係で処理する。  
以上通災、業務災害の処理の方策を記述しましたが、これらは通常の加入保険、即ち有期事業主に一括継続事業の一般論を申し上げましたが、但し特別加入者については、取扱は何ら変わりはありませんが、運用が異なり誤解を招くお恐れがありますので御注意を。  
あくまで事務処理の原則を申し上げますが、問題の事案が発生した場合には解釈上の面から、最寄りの労基署又は県板事務局へ、具体的な資料を添えて、相談して頂く事が望ましいと思ひます。

## 二月四日の感動

戦後以来「復興」の合言葉のもとに、この五十年、がんばった日本、いい国と思うが、犠牲? 忘れた? 今さら? 「賢者は歴史に学び愚者は体験に学ぶ」とビスマルクは言いました。今の日本は後者ではあるまいか。

小学生の子供がいるせいか、中日新聞の日サンデー版も目を通す、個人的には北見けんいち氏のファンだからかもしれない。又クロスワードクイズや文字クイズなど子供と一緒にやる事もしばしばである。平成八年二月四日のサンデー版を見られたらどうか? 私にとって非常に考えさせられる新聞とテレビだった。北見けんいち氏の「元氣くんパレード」は、昭和三十年代の時代背景で、めったに食えない「スキヤキ」を食べる所と、現在はいっても食える「スキヤキ」で元氣くんの子供たちが、肉を

ながら紙芝居をする彼女の瞳がほんとうに澄んで輝いていた。  
私が初めてテレビを見た時のあの感動は、カンボジアで紙芝居を観てる子供達と同じ目だったのではないかと、物欲的には満たされてる今の日本人が今一番飢えてるのは感動する事かもしれない。  
二月四日の夕食時、月々五千円で途上国の里親制度がある事を知り、子供達(三人います)にお小使いの中から三人で千円だし、残りの四千元は私が出す事を提案したら、三人とも「いいよ」と言ってくれました。(ちよっぴり感動)今、詳しい事を調べてるところです。  
北見けんいち氏の「元氣くん」とカンボジアでがんばっている高山由香さんに心よりメールを送ります。感動をありがとうございます。 パパ

# 第22回新春板金セミナー

主催 愛知県板金総合職業訓練協会  
県板名古屋・尾張・知多支部

新春セミナーも回を重ねること22回を数え、今年には名古屋の中心栄の愛知県芸術文化センター12階のアーティストペースと言う会場で1月21日に開催された。

会場が芸術文化センターという名の施設であるため我々のような業界には少し場違いのようである。来年度の場が期待される。

主催者の挨拶に続いて来賓の挨拶があった。全板興業の篠原氏は挨拶の中で瓦屋が雨種まで施工するようないかなる不景気で仕事も減っているから、異業種にも仕事を広めなければ乗り切れない状況であると挨拶された。

続いて今名古屋で工事が進んでいる名古屋ドームの屋根工事に携わった元旦ビュウーティ(株)から名古屋

ドームの屋根の概略の説明があった。この工場の詳細は西支部の松代氏が施工に携わったのでサンブルを参考に説明があった。来年の春には名古屋ドーム球場でのドラゴンズ活躍が期待される。

講演に移り最初はタニタハウジングの名古屋営業所長木山正一氏が住宅新聞に埼玉県の施主から寄せられた記事を取り上げ、工事を依頼した袴田工務店は今では当たり前になっている、現場に仮説トイレや喫煙用に大型灰皿設置・週末には現場内の清掃を十五年前から実施している施主から依頼している施主から好評を得ている為不況知らずとの事である。

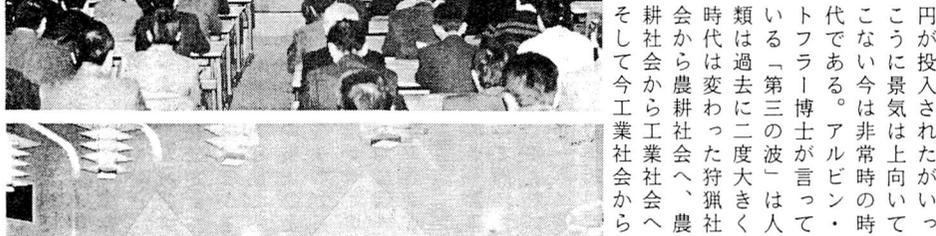
最近では大手住宅メーカーが建築工務店にも入り込んでチェーリ化とかグループ化を進めている、その傘下に入った方が仕事を安定して受注できるよう

グルーピングが進むと思われ。また銅板製屋根問題にふれ中国の石炭生産が活発であり偏西風の影響で日本では今後酸性雨が増えると思われ。詳しくは全板新聞第四六二号と四六三号にタニタハウジング市場開発部長狩野明夫が「酸性雨が銅板に及ぼす実態と対応」を書

いておられるので参考にしたいと講演された。



午後には原裕一郎氏の「マルチメディアと生活革命」の講演であった。



一九九二年にバブルがはじけて四年がたった不況対策には四五兆円が投入されたが、こうに景気は上向いてこない今は非常時の時代である。アルビン・トブラー博士が言っている「第三の波」は人類は過去に二度大きく時代は変わった狩猟社会から農耕社会へ、農耕社会から工業社会へそして今工業社会から

情報社会へ変わろうとしている「第三の波」が来ているのである。戦国時代が非常時に徳川時代は平常時(安定時)明治維新で非常時になり大正時代が平常時、昭和始めから昭和三〇年までが非常時で、それ以後四〇年間バブルが崩壊するまで安定した良き時代であった。いつの時代でも非常時にも言えることは

十年前の明治維新前後の時代と今の現代と非常に良く似た共通点がいくつもある。この非常時は昭和六十一年から平成二十二年まで続くであろう、最低は一九九五年、一九九八年が「どん底」であり現在の工業社会が終わり二〇〇〇年には情報化社会になるだろう。移動性であった狩猟社会が定住して農耕社会になり価値のあったもの(閨閥)が工業社会では価値をなくした。そして工業社会では新しい価値を持ったもの(財閥)が出た。当然情報社会では工業社会

## 2月各支部の動き

- 昭和支部 8日 支部例会13名
- 29日 青年部例会
- 緑支部 18日 決算総会16名
- 一宮支部 4・5日 青年部総会旅行 片山津
- 20日 青年部例会
- 23日 支部役員会
- 春日井支部 8日 支部定例会
- 犬山支部 15日 例会 15名
- 尾張連合会 21日 役員会
- 21日 ゴルフコンペ
- 岡崎支部 15日 役員会 18名
- 25日 支部総会78名
- 碧南支部 14日 青年部ボーリング大会 32名
- 17日 青年部新年会
- 19日 コーキング材共同購入
- 豊田支部 13日 第8回役員会
- 知多支部 19日 支部理事会
- 東三支部 2日 定例会 29名
- 21日 三役会
- 25日 青年部勉強会

驚見 收

# 早春の駿河路を行く

斎藤 充昭

早春午前四時に自宅を出た写真ボケのオツサン三人組は、駿河湾を濃いオレンジ色に染めて立ち上がる朝日を浴びながら、東名高速道清水ICから国一静青バイパスを経て、七時前に最初の目的地である、静岡県庵原郡由比町の薩埵峠に着く。

標高二四四mの峠周辺はみかん畑が連なり正面上に富士山、崖の下は東名高速と国道バイパスが走り、駿河湾の青く広がる海原の先に伊豆の山々が展望出来る。素晴らしい場所である。無風快晴、富士山はいく姿を見せて出迎えてくれた。峠の駐車場から遊歩道があり、あずまやの休憩所や展望台が整備され、眼下の駿河湾に浮かぶ漁船群、雪化粧をした富士山に水仙・紅梅白梅の香り



日本一桜えびの町、由比

と観光用に残されたみかんまで彩りを添えて早春を演出している。ここ由比町は東海道五十三次・十六番目の宿場町で栄えた所で、「倉沢・寺尾」の町並みは当時の街道の面影を今に残している。また神社仏閣も数多く歴史の好きな人には「旧東海道の町並みと史跡訪ね歩き」など興味深い街である。また昨今の由比町は史跡と古美術と桜えびを中心にした観光事業に力を入れており、宿場町の本陣跡を整備した江戸時代を偲ばせる「由比本陣公園」がオープンしている。

公園内には東海道五十三次の版画で有名な歌川広重の名作を展示した「東海道広重美術館」があり、繊細な作品の浮世絵は一見の価値は十分有る。次に今や由比町の代名詞となった「桜えび」は世界中で駿河湾だけに生息しており、豊富な漁獲量は町の中心的な産業であり、漁業者や加工業者も街の中で数多く見受けられる。

桜えびの漁期は四月から六月までの春期と、



▲ 素干し桜えび

秋期は十月下旬から十二月迄で資源保護のため操業期間が決められている。出漁期間中晴天の日には、朝水揚げされた「桜えび」が富士川の河川敷の干し場に素干しされる。広大な河川敷を桜えびの朱色の絨毯を敷き詰めた正面に、富士山の偉容と東名高速が走るロケーションは圧巻である。本陣公園から徒歩で三分くらゐの所に「ゆい桜えび館」があり、町の活性化と観光を目的に酒屋・お茶屋・染め物屋・海産物、割烹など地元の特産物の皆さんが知恵を出し合って造り上げた店で

由比町の特産品が並び、桜えびの食事も出来る。由比町の食事処は本陣公園すぐ西隣の老舗「井筒屋」がいい。

風味満開、桜えびづくし……「由比定食」がお勧め。桜えびかき揚げのサクッとした歯ざわりと生の桜えびと豆腐にネギを煮ながら食べる「沖上がり」が美味しい。本陣公園や井筒屋には駐車場がないから「ゆい桜えび館」の無料駐車場から散策しながら歩いて行った方が面白い。由比町には夏を除いて一年に何回か撮影に訪れるのがこの町で水揚げされる水産物の加工業を営む渡辺功さんと以前から知り合っている。いつでも立ち寄り合っている。いつも元気印で気前がいい男である。

由比町から蒲原を過ぎ富士山を眺めながら、右へ行くと河川敷の干し場だが今はえびの漁期ではないので左に曲り河川敷の中の道を川上に暫く走って、新幹線や国道一号の鉄橋下から周辺の景色を撮る。今日はいい顔している。再びバイパスに

戻り、九時三十分発のフェリーに乗船のため「田子の浦港」に向かう。今日三つ目の目的地は、駿河湾から早春の富士山を撮ること。駿河湾カーフェリー「あまぎ」は西伊豆土肥港に向けて時刻に発船、八十分の船旅である。平日のためかバス一台と乗用車二台だけ。

我々には好都合である。天気は快晴、海はベタ凪、富士山は全姿を見せている。田子の浦港を出て富士市の町並みや工業地帯の赤白に塗られた煙突が次第に小さくなって行くのと反対に、富士山はだんだん大きく見えて来る。駿河湾に点在する漁船や行き交う船、そして土肥港に入港するまで見え続ける雄大な富士の眺望は魅力的で見飽きる事を忘れる。

土肥港で下船、土肥温泉街を通過して海岸側の山道を最後の目的地「戸田村」へ走る。

(戸田と書いて「へた」と読む)雪の残る道路ぞいには桜の木が並び開花の頃は走りながら花見が出来そう。風光明媚な戸田村は静かに大自然を満喫させてくれる。そして何よりも景色がいい。西伊豆

の中でも戸田村から見た富士山の勇姿は抜群の美しさを誇る。天然の良港「戸田港」は海水がすくききれいだ。また海岸には松林やイヌマキが茂る景観と、波穏やかな砂浜の海水浴は人気も上々。戸田の味自慢は新鮮な魚もいろいろ、名物・高足がいいが、最高。深海の蟹だから大味ではあるが一度は味わって見るのもいい。参考迄に一パイク一万五千円くらい。

## 編集後記

「福は内・鬼は外」二月三日、各地で節分の行事が行われた。春を呼ぶ伝統的な節分の行事も地域によっていろいろの形が有るようだ。豆まきの掛け声も、ある所では「福は内・福は内」幸せな事にその部落には鬼が居ないのだそうだ。

また別の所では「福は内・鬼も内」これは鬼も改心して人に尽くせば悪者にしなくてもいいと、仲間意識が芽生えると言う。

ほほえましく優しい心の言い伝えである。しかし人に尽くす心を持つ鬼なら共存も歓迎であるが、昨今は

国道ぞいや港周辺の食事処では「生す」に生かしており何処でも食べられる。

戸田港で自然と富士と魚料理を満喫した後、戸田村天然温泉「壹の湯」に入り、沼津の干物街道でアジの開きとイワシの丸干しを土産に、沼津ICから帰路に着き午後七時過ぎ無事帰宅。三重丸の一日であった。(追記：イワシとアジの干物は安くて大変うまかった。)

我々の納めた税金を食い物にしようとする、ワルの赤鬼・青鬼、つまり「住専鬼」には腹が立つ。行政をはじめる母体行、貸側、借側、すべて、言い訳と責任のなすり付け合いに終始して国民を愚弄している。この様な連中、この腹の中まで真っ黒の悪知恵にたけた「黒鬼」とでも言うのだろうか。

いずれにしても、住専処理案を押し通そうとしている「黒鬼」どもは国民の怒りに触れて必ず退治されるだろう。

二月二十八日(水)晴  
三〇三号編集会議  
委員 九名 出席  
日間賀島出張会議  
午後五時終了 (S)